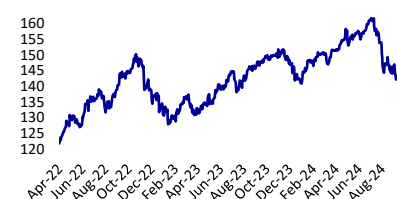


市場動向

■USD/TWD



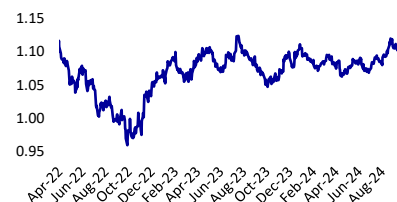
■USD/JPY



■JPY/TWD



■EUR/USD



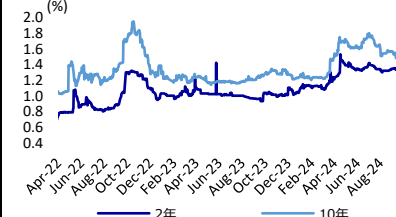
■USD/CNH



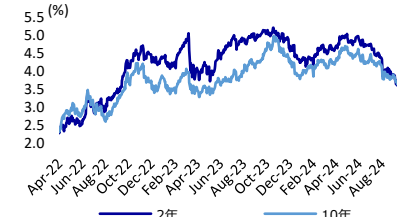
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初9/9は31.950でオープン後、前週末海外時間に発表された米8月雇用統計が軟調な結果となったことで米株が急落していたことを受けて、台湾株も急落。外国人投資家による台湾株売りが見られ、32.10近辺まで上昇。9/10は、台湾株が上値重く推移していた他、輸入業者による外貨買いなども見られたことでドル買いが進み、一時32.218まで上昇。9/11は、米大統領選候補者討論会を控える米金利に低下圧力が掛かる中、ドル売りが優勢な展開となり32.10近辺まで下落。9/12は、材料に乏しく32.10近辺で揉み合いの推移。9/13は、前日海外時間に発表された米インフレ指標の減速を受けて米金利が低下する中、ドル売りが進み32.00近辺まで下落。その後も、台湾株の上昇を背景としたリスクセンチメントの改善や、輸出業者による外貨売りの影響でドル売りが進み、32.00を割れ込み下落した。最終的には前週比0.2%ドル高台湾ドル安の31.992で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は463.3億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は下落。週初9/9は142.20でオープン後、発表された日第2四半期GDPが下方修正されていたことを受けて、円売りが優勢な展開となり、一時143.80まで上昇。9/10は、米大統領選候補者討論会を控える中、選挙リスクが意識されリスク回避的な動きが優勢になると、円買いが進み142円台前半まで下落。9/11は、日銀の中川審議委員より金融政策についてタカ派な発言が聞かれる中、円買いが進み140円台後半まで下落。しかしその後、発表された米8月CPIが市場予想を上回る堅調な結果となったことを受けて、ドルが買い戻され142円台半ばまで上昇。9/12は、日銀の田村審議委員より「少なくとも1%程度まで短期金利を引き上げておくことが必要だ」とのスタンスが示されていた他、その後発表された米8月PPIが減速していたことを受けて、ドル売り円買いが進み、141円台後半まで下落。9/13は、FOMCを控える中、一部報道機関より「利下げ幅が25bpになるか50bpになるか予断を許さない可能性がある」との報道があったことを受けて米金利が急低下。ドル売りが進み一時140.29まで下落した。最終的には前週比0.9%ドル安円高の140.84で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.650-31.950

今週は下落を見込む。週中に控えるFOMCにおいては米利下げが想定される中、ドル売り圧力が強まりやすいであろう。週末に控える台湾中銀にも注目が集まる。

■USD/JPY 予想レンジ：138.50-141.50

今週は上値の重い推移を見込む。米国においては利下げが想定される一方、日本においては多数の中銀高官から今後の継続的な利上げが示唆されており、日米金利差の縮小が進む場合、円が買われやすいであろう。

今週の予定

9/16 (MON)	日本休場、米9月ニューヨーク連銀製造業景況感指数
9/17 (TUE)	台湾休場、米8月小売売上高、米8月鉱工業生産
9/18 (WED)	日8月貿易収支、米8月新規住宅着工件数、FOMC
9/19 (THU)	台湾中銀、米9月フィラデルフィア連銀景況感指数
9/20 (FRI)	日8月CPI、日銀金融政策決定会合

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。